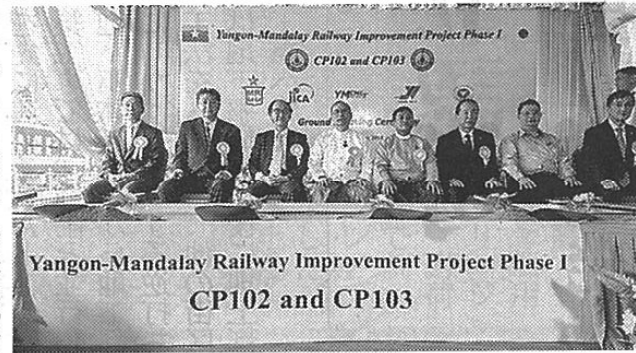


日刊建設工業新聞（2018年11月14日付3面掲載）

【オリコンサルグローバルらが施工監理 ミャンマーで鉄道整備起工】

ミャンマーで 鉄道整備起工

オリコンサルグロー
バルらが施工監理
オリエンタルコンサル
タ



ンツグローバル（東京都新宿区、米澤栄二社長）は13日、ミャンマー最大の商業都市であるヤンゴンと同国第2の都市・マンダレーを結ぶ「鉄道整備事業（フェーズ1）」の全8パッケージのうち、2パッケージに当たるCP102（バゴ―ン・ニャウンレビン間）と、CP103（ニャウンレビン・タンゲー間）（円借款供与額450億円）が起工したと発表した。施工はCP102が鉄建建設・りんかい日産建設が、CP103が東急建設。オリエンタルコンサルタンツグローバルは他社と共同で施工監理業務を担う。

11日に現地で関係者が出席して起工式が行われた。写真。事業区間の延長はCP10280キロ、CP103116キロ。軌道を含む土木構造物の修復・改良、車両基地建設、鉄道システム（信号通信設備の更新）、電力設備（66キロボルト／6・6キロボルトの変電所含む）などの工事を予定する。22年末までの完成を目指す。今回の事業が完成すれば、23年にヤンゴン・タンゲー間の所要時間が6時間から3時間に短縮できると期待されている。